

はじめに

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんの中には、大学生活への期待とともに「大学と高校までの学修はどう変わるのだろう」と不安を感じている方もいると思います。みなさんの充実した大学生活を支援するため、琉球大学附属図書館では、「琉大生のための情報リテラシーガイドブック」を作成しました。

タイトル中の「情報リテラシー (information literacy)」という言葉は、アメリカ図書館協会の1989年の報告書によりますと「情報が必要なときそれを認識し、必要な情報を効果的に見つけ、評価し、活用する能力」と定義されています。パソコンを操作する能力（コンピューターリテラシー）のみをイメージする方もいるかもしれませんが、本来は、自分が必要としている情報が何なのか理解する、必要な情報を効率的に収集する、集めた情報をきちんと管理する、情報の内容を批判的に評価・選別する、それらの情報と自分の知見を組み合わせ新たな情報を生み出して発信する、等々、情報に関わるあらゆるプロセスで必要となる能力のことを指します。玉石混交の膨大な情報が飛び交う現代において、これから大学という豊かな知に溢れた場で学びを拡げ深めていこうとするみなさんにとっては必須の能力であり、近年のコロナ禍のようにさまざまな制約が生じる場合においても、学びを止めないために修得することが求められます。この能力は、いずれ社会に出た際にも不可欠となるものですので、本書を通じて「情報リテラシー」を身につけてください。

本書は、レポート作成の流れを想定した構成となっています。まず1章「レポートを書くために－人文科学・社会科学分野から－」では、レポート作成の過程でどのようにアイデアをまとめるかを説明しています。続いて、2章「資料・情報の収集－琉大の図書館を使う－」で、図書館を活用したさまざまな情報の収集方法について説明しています。ここでは、自宅でも利用可能な図書館資料やサービスについても紹介しています。そして、3章「レポートを書くときの注意点－著作権と引用－」では、収集した情報を適切に利用するための注意点について説明しています。最後に、情報の収集・発信に関わることとして、4章「情報の収集・発信にあたって－琉大の情報基盤を使う－」で、学内のパソコンやインターネット環境の具体的な利用方法を説明しています。オンライン授業や自宅での学習を含む、大学生活のさまざまな場面で利用できる内容となっていますので、「琉大生のための情報リテラシーガイドブック」をぜひ活用してください。